

# 週 報

日本基督教団 翠ヶ丘教会

since 1964

## 2026 年度年間聖句

「主は人の一步一步を定め  
御旨にかなう道を備えてくださる。」  
(詩編 37 編 23 節)



### どなたにも開かれている定期集会

主日礼拝 毎日曜日 午前 10 時半  
子どもの教会 毎日曜日 午前 9 時 ～10 時  
祈 祷 会 各水曜日  
○昼の聖書研究祈禱会  
(第3・午後2時)  
●夕の祈禱会  
(第2、第4・午後7時)

牧 師 井 殿 準

〒 252-0312 相模原市南区相南 2-25-65  
TEL. 0 4 2-7 4 2-1 5 9 3  
FAX. 0 4 2-7 4 2-1 3 9 3  
ホームページ: <http://www.midorigaoka.jp>  
郵便振替口座 日本基督教団翠ヶ丘教会 本会計  
0 0 2 9 0-4-8 0 7 0 7

# 3228 2026 年 9 月 27 日

## 礼 拝 式 順 序

(聖霊降臨節第 19 主日)

司 式 者 井 殿 準  
奏 楽 者 菊 池 洋 子

|                                   |       |
|-----------------------------------|-------|
| 前 奏                               | 奏 楽 者 |
| 招 詞 詩編 95 : 1 ~ 3                 | 司 式 者 |
| 讃 美 歌 1 5 「みことばにより」               | 一 同   |
| 聖 書 コロサイ 1 : 2 1 ~ 2 9 (新 P. 369) | 司 式 者 |
| 使徒信条 (9 3 - 4 - A)                | 一 同   |
| 祈 祷                               | 司 式 者 |
| 讃 美 歌 5 3 0 「主よ、こころみ」             | 一 同   |
| 説 教 「神の力を感じつつ」                    | 司 式 者 |
| 祈 祷                               | 〃     |
| 讃 美 歌 4 1 9 「さあ、共に生きよう」           | 一 同   |
| 献 金                               | 〃     |
| 主の祈り (9 3 - 5 - A)                | 〃     |
| 頌 栄 2 4 「たたえよ、主の民」                | 〃     |
| 祝 祷                               | 司 式 者 |
| 答 唱 4 0 - 6 「アーメン」                | 一 同   |
| ～「主の平和を」と、祈りを込めて隣席の方々と挨拶を交わしましょう～ |       |
| 報 告                               | 司 式 者 |
| 讃 美 歌 9 1 「神の恵みゆたかに受け」            | 一 同   |

- ・当教会では讃美歌 21 と新共同訳聖書を使用しています。お持ちでない方は受付に常備されているものをご使用ください。
- ・立ち座りのご不自由な方はどうぞ着席のままお臨みください。
- ・FM電波による補聴器が用意されています。受付に常備してありますのでご利用ください。
- ・マスクの着用は個人の判断にお任せいたします。ご心配な方はマスクを着用してください。

先週の説教要旨  
「福音と自己責任」

(ヘブライ 9 : 2 3 ~ 2 8)

聖書は我々に「喜ばしい知らせ」「福音」を告げているが、我々は聖書の告げる福音をしっかりと福音(良い知らせ)として聴いているのだろうか? 聖書の言葉を「キリスト者たる者、こうあらねばならない」等と、倫理的な要求を課すばかりの言葉として聞く時、聖書は我々にとって「良い知らせ」を告げるものではなく、「悪しき知らせ」を告げるものになってしまう。

律法学者やファリサイ派の人々は「律法を守りなさい」「律法を守らない者は神からの救いにあずかることはできない」と教え、少しでも律法に反した振る舞いをする者がいれば、「そんなことでは救われない」「あなたが救われないのは律法を守らないあなたが悪い」と自己責任論で切り捨てて行っただけ。しかし、主イエスはそうやって自己責任論で切り捨てられて涙している人々に向かって「そうではない」と、「あなたも神に愛されたかけがえのない一人なのだ」「わたしはあなたを救うために十字架の上で命をささげる」と福音を告げてくださった。

主イエスは、御自身の教えに従い切れない我々のことを「あなたはキリスト者として落第です」「できないあなたが悪いのです」等と自己責任論で切り捨てたりはなさらない。キリストは「ただ一度、御自身をいけにえとして献げて」、我々の罪を一切を取り去ってくださり、我々に救いの道を開いてくださった(26 節)。主が再びこの世においでくださるのは、我々を自己責任論で裁くためではなく、救いをもたらすためだ(28 節)。今日の聖書の御言葉告げていたのは、そのような福音の良い知らせにほかならない。

我々が世にあって為すことは「戒めを守らなければ救われない」とか「完全無欠の私にならねばならない」等と思いつつ、それができない自分を嘆いて、神の裁きを恐れおののくことではない。そうではなく、主が我々のために死んでくださり、我々は必ず救いにあずかることができると固く信じて、喜びと感謝の内に生きることだ。それ故、我々は福音の御言葉が大きな喜びの良い知らせであることを胸に刻み直し、喜びに押し出されて、福音の喜びを大いに告げて行こう。